

私たちの身近に 安心できる居場所を...

ま ず な

第14号

2018年5月

＜発行＞
泉南市人権啓発
推進協議

【人権作品展】

平成29年度の「人権作品展」はイオンモールりんくう泉南で11月21～26日に開催し、これまでの最高の1,750人の方々にご来場いただきました。おじいちゃんやおばあちゃんなど家族みんなで来てくれた方、中学生高校生は友だちと、泉南市以外から買い物途中に立ち寄ってくれた方等々、作品展の会場は温かい居場所になりました。



【参加者の声】

＊みなさんが一生懸命完成させた作品だったのが、ものすごく伝わってきました。一人ひとりの個性が感じられ元気をいただきました。

【コンサート】

また、11月25日（土）、人権作品展の会場でシルキーサウンドトリオによる、ふれあいコンサートが開催されました。



【市民の集い】

つつまれました。



＊「ふれあい」というテーマにぴったりです。「世界平和」「光」「人権」「絆」「居場所」という言葉たちに囲まれ、やさしく心のこもった演奏！演奏者のみなさんのお人柄が伝わるあったかい音色に、会場が

12月3日（日）は文化ホールにおいて、映画『さとにきたらええやん』の上映と、重江監督による映画にまつわるエピソードをお話ししていただきました。映画の中ではさまざまな環境にある子どもたちや、またその子どもに関わるおとなたちが描かれています。両者にとって「ここに居てもいいんだ。」と思える居場所があることがうらやましくもあり、私

たちの地域にも小さくてもいいのでつくれないかと思いました。

【参加者の声】

＊見に来てよかったです。「いつでも来たらええんやで」って安心できる言葉だと思う。居場所があるって大切なことですね。

＊地域の中に子どもの居場所、そこに子どもたちの生活、成長があって、人と人とのつながり、かかわりが素晴らしいと思います。しんどいことをありのままに言える安心感、信頼の中で、いろんな人と出会い、支え合って生きている姿に感動しました。

＊「さとにきたらええやん」そんな所がたくさんできればいいなあとと思います。人生何歳でもしんどいことがあるので、すべての年代に支え合い、励まし合える世の中になっ

てほしい。みんなの力を少しずつ合わせられればうれしい。

＊「子どもの居場所」が必要であることを改めて感じました。子どもにとって安心できる場、子どもを通して、親と地域とのつながり、そのかわりの中で、一人ではないことを感じ、大切にされることの大事さが強く必要だと感じました。これからこの泉南市で、誰もが大切にされる居場所がたくさんできるとを願っています。



地域の子どもは 地域で育てる

「牧野の遊び場」 やってみました!



あなたの暮らす地域には、子どもが安心して遊べる場所や世代を超えた交流ができる場所はありますか？

少子高齢化や小学生を狙った残虐な事件など色んな背景があり、子どもたちの遊ぶ場所が失われつつあるような気がします。そして今は夫婦共働きも当たり前の時代で、子どもが下校したら親が帰ってくるまで一人ぼっち、という家庭も多いのではないのでしょうか。

以前は、学校帰りに近所のおばちゃんたちが「おかえりー」と声をかけてくれたり、同じ学校の友達と夕

暮れまで外で遊んでいたものです。そんな当たり前だったはずの「地域のつながり」をもう一度盛り上げるため、『地域の子どもは地域で育てる』をスローガンに「牧野のあそび場」を開催しました!

今回は信達校区に地域を絞り、泉南市人権推進課・長寿社会推進課、校区人権推進協議会、高齢者の元気を支える取り組みをされている「街かどデイハウスきぼうの輪」など様々な団体が協力して、あらゆる世代の地域住民が楽しく遊べる居場所づくりを目標に当日のプログラムを考えました。

街かどデイハウスきぼうの輪による全体レクリエーション(これがすごく盛り上がった!)のあと、iPad 体験や囲碁・将棋、せんなんカルタなど、おとなも子どもも一緒になって笑い合えるゲームをして、最後のお楽しみはおやつ作り!!

キッズカフェ 大盛況でした!



キッズカフェオープンに向けて、子どもたちと一緒に会議や調理に参加しました。子どもたちの主体性を大事に会議を進めていましたが、意見がまとまらず、前に進まないことも多々ありました。メニュー・担当・開催時期・接客等、盛りだくさんで、子どもたちも大変だったと思います。練習の時は、上手いかなかった調理も、本番ではすばらしい仕上がりでした。

最後まであきらめず意見を交換し、子どもたちが思い描いていたカフェになったのではないのでしょうか。

当日はお天気も良く、たくさんの方にお越しいただき、一時間で完売することができました。(ぷら☆ねっと)



信達小学校や地域の方々からいただいたサツマイモをホットプレート



で温めて、好きな味をトッピングしたら甘いおいしい菓子の完成♪参加者みんな笑顔いっぱい、あっという間の2時間でした。

「牧野のあそび場」は不定期でこれからも開催予定です!でも、あそび場でも知り合ったおとなと子どもが地域でまた会ったときには、お互いが声をかけ合える、そんな関係が生ま

れたらと思います。

子どもたちが安心して地域で育っていくためには、保護者だけでなく、地域みんなで見守り合いができる環境をつくっていかねばなりませんね。

泉南市いきいきネット
相談支援センター六尾の郷
コミュニティ

ソーシャルワーカー
木下星集

人権協フィールドワーク

4月19日(木)人権協フィールドワークとして、和歌山県有田郡広川町にある「稲村の火の館」と湯浅町にある伝統的建造物群保存地区に行ってきました。総勢42名の大人数で、お天気も良く、学びの多い現地研修になりました。

稲村の火の館と

醸造の香りのする町へ

飛花落花の美しい桜も散り、春が駆け抜けてゆくほころびた新芽が風にそよいでいる。人権フィールドワークに、さあ！出発だ。

南海トラフで30年以内に巨大地震が発生するとの発表があり「濱口梧陵館」を訪れるのは良き企画であった。稲村に火を放ちそれを目印に村人の多くの命を津波から救った彼の応急・復旧・予防の偉業に驚嘆した。一方、バスは広い通りだけでなく、小路と呼ばれる路にも向けて走った運転手さんの行動に心を打たれた。

もう昼食である。新鮮なしらすをふんだんに使った「しらす丼」は幸せな味で記憶に残った。

醤油発祥の地として知られる香りの町では、醤油

と味噌の関連を学んだ。酒の試飲には慣れていても、おかずとして食べる味噌の試食は初めてであった。やや遅れて湯浅を後にした。

さて、人間は無意識の中で差別(性別・貧富など)をする。今、セクハラ報道による高官の辞任が話題である。人の品行はなおせても、品性はなおせない。 「濱口梧陵こそ、人権教育の模範的な人物ではないか」と思いつつ、人と人の触れ合いを楽しんだ小さな旅であった。

(宮里 尚治)



つながり vol.4



このコーナーでは、日ごろ何気ない生活の中で、人権が感じられたり、ふっと暖かな気持ちになるエピソードを紹介します。

つながり 世界へ

よくたずねられます。

「どうすれば海外に友人を持つことができますか？」

私は答えます。

「ホストファミリーになることです。」

日本に来る外国の方たちはとりわけ、アニメーションの影響からか、日本の文化や、食べ物が好きだから、日本語そのものが面白い

くて好きと言います。母国で日本のあらゆるものを勉強し、遂に日本に来ます。そしてホストファミリーに会うのです。もちろんすでに何人かの日本人と関わって学んできたことはあるでしょう。でもホストファミリーはちよつと違います。生活をそのまま見せるのです。玄関で靴を脱ぐ、から始まって、生活やお風呂の入り方、日本気質等々、あらゆる質問に答え、語り合い、笑い、だんだんつながっていきま

す。帰国まで何度か会って出かけます。つながりはどんどん太くなる。彼らが帰国する際は涙ぐみ、再会を約束します。彼らにとつては日本の家族になります。日本はもつともつと彼らの中で大きな存在になります。お互いの国がとても大切に思え、それは増えていくばかりです。

私たちのボランティアは小さくささやかなものですが、それは小さな平和のともしびです。小さな平和のともしびは少しずつ、大きな平和の火になっていくものと思います。

東日本大震災が起こった7年前、世界中の友人たちが「大丈夫なの？メール」を送ってくれました。関西国際センターの友人たちは、駅前に募金箱を持って立ち、義援金を被災地に送ってくれました。日本は見捨てられていない！大丈夫だ！と心強く思い、嬉しかったことを忘れません。日本に来る外国の人たちの人権を思いやり、日本の家族になりませんか？そして世界へつながりませんか？私はずいぶん勧めます。

(池上玲子)



校区の集い

校区人権協では、小学校区単位で地域に根ざした人権啓発活動を行っています。毎年、それぞれの校区で小学校やPTAと協力し、「校区の集い」を開催しています。平成29年度は、樽井校区において、JERRYBEANS（ジェリービーンズ）&yokko（ヨッコ）をお迎えし、お話をうかがいました。

JERRYBEANS&yokkoのお話を聞いた 樽井小学校の児童から感想をいただきました。

○不登校の人は悪い人だと思っていましたが、講演会を聞いて不登校の友達はいろいろ思いがあるから休んでいるので気づかうべきだと思った。みんないろいろな経験の中で生きてきたから、ほめることだと思った。（5年生）

○この講演会で学んだことは、生きてるのは当たり前じゃなくて、今生きていることに感謝するということです。そのことを歌や言葉で伝えてくれてわかりやすかったです。（6年生）

○ジェリービーンズさんの歌はとても力強く、歌詞1つ1つに想いがつまっていると感じました。yokkoさんのお話の中で、音楽を体で感じるという言葉が印象に残りました。不登校というのは、その人だけが悪いのではなく、周りもみんな協力しないといけないなと思いました。（6年生）

○自分の心の中に残ったのは、「果実」という曲です。歌詞に「自分ならどんな形でもいい」のような文がありました。それは曲名にもあるし、自分で育ててきた果実（心・道）なら、どんな形でも、どんな物でも自分だから良い。そういうことかと思いました。（6年生）

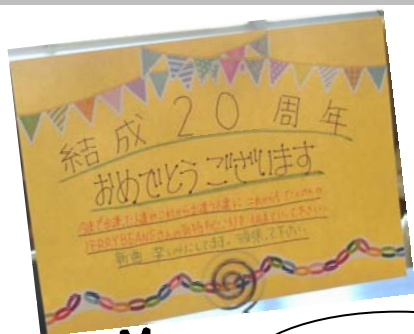
11月12日（日）樽井小学校の日曜参観と同時に、第29回人権樽井校区の集い・樽井小学校PTA日曜参観研修を行いました。本年度はJERRYBEANS & yokkoさんをお迎えして、「元引きこもり青年による心の授業」の講演ライブをしていただきました。小学校から中学校までひきこもりを経験したメンバー3人は

私たちにいろいろなことを教えてくれました。そして何より笑顔がとても素敵でした。体験談はもちろん歌詞にもメッセージが込められており、心に残るものでした。自分の周りにはたくさん友達や学校の先生、両親やおとなたちがいる。けどなかなか人には言えず、一人で悩んでしまいます。けれどもたとえほんの少しでも気持ち

を理解してあげられる「思いやり」と周りの人になんか必要なのだと。そして、自分の周りは敵ばかりではなく味方ばかりだよって教えてくれました。そしてyokkoさんの歌声には本当に癒されました。優しく包み込んでくれた感覚です。手話を交えて一緒に歌った「虹」。樽井

小学校にも大きな虹がかかりました。最後の曲ではおとなも子どもも大盛り上がりで、あつという間の講演ライブでした。いつもJERRYBEANSさんが使っている言葉をお借りします。「出逢ってくれて、ありがとう」

（平成29年度
樽井小学校PTA
研修委員 実行）



←PTAさんたちが講師控室に素敵なメッセージカードを用意してくれました。

編集後記

私たちは、年代・体験・現住所・生誕の都市町村等、互いに違っていても泉南市に共住しています。故に考え、見方、想いがそれぞれ違って当然です。この違い…異論を普通は話し合うことで対応されていますが、いい加減にお互い譲り合ったり、一方的に意見を通したり…があるようです。せっかくの話し合いが、もったいないです。大切なのは、この異論を十分に論議し合うことです。その上で異論を大事にしつつ協調してゆきましょう。

日本国内、世界で種々の異論が飛び交っていますが、充分論議を重ね、疑惑を無くし協調して平和な世界を創るよう！願うばかりです。（企画委員会 編集委員）